



TITLE:

昭和九年邦文天文書一覽:附. 雜書

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 昭和九年邦文天文書一覽: 附. 雜書. 天界 1935, 15(167): 187-189

ISSUE DATE:

1935-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166976>

RIGHT:

# 昭和九年邦文天文書一覽

附. 雜 書

水 野 千 里

昭和九年に出版された天文書は實に曉天の星の如く、月明かに、星疎な様に少なかつた。

1. 天文隨筆集**星座春秋** 理尻抱影著 1冊 ¥ 1.50 發行所 研究社

本書に收められた三十篇は、著書が最近二、三年間に雑誌や、新聞に載せられたもの、JOAK から放送されたものを集められたものである。而して著書一流の神話、傳説等に通俗の科學方面のことを加へられたもので、何れの篇から讀んでもよい。汽車や電車の中で繙くも一興である。

2. **我等をめぐる宇宙** ジーンス著 賀川豊彦、鏑田研一共譯

1冊 ¥ 2.60 發行所 恒 星 社

目次——はしがき、序文、序論、第一章 空間の探査、第二章 原子の探査、第三章 時間に於ける探査、第四章 宇宙の開拓、第五章 恒星、第六章 始まりと終り——循環過程。

3. **科學の新背景** ジーンス著 賀川豊彦、中村獅雄共譯

1冊 ¥ 2.50 發行所 恒 星 社

目次——第一章 外界への接近、第二章 科學の諸分式、第三章 外界の骨組——空間と時間、第四章 機構論、第五章 外界の組織——物質と輻射、第六章 波動力學、第七章 不確定性、第八章 事象論。

2, 3, は「宇宙の神祕」と共にジーンス氏の三名著、何れも良書で殊に3, は科學は唯物論のみにては難解のところがあるので、唯心論を加味して始めて了解される點があるのでこの一書は熟讀すべきである。

4. **天體の驚異** 仲摩照久編 1冊 ¥ 1.50 發行所 新光社

挿畫多く、天文の一斑を同時に知ることを得られ、應接室用としてもよい本である。

5. 星と人生 理學博士 田中宗愛著 1冊 ¥ 1.30 發行所 恒星社

本書は各種中等學校生徒の讀みものとして最も適して居る。それに宗教的意味感謝の念を常に以つて居なければならぬといふことが力説されてゐる。

6. 全天星圖 理學士 村上忠敬著 1冊 ¥ 3.50 發行所 恒星社

本星圖は邦文星圖中の最良なるものであることに異論はないが、麗を得て蜀を望むは常である。そこで一、二の注文がある。

第Ⅰ圖版、第Ⅴ圖版の兩極地方の星圖が、極から赤緯北(南)三十度迄書かれて居ることは、用意周到である。第Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ圖版共赤道の南北各60度迄あるのはよいが、第Ⅰ, Ⅱ圖版赤經  $6^h$ — $8^h$ , 第Ⅱ, Ⅳ圖版  $14^h$ — $16^h$ , 第Ⅳ, Ⅴ圖版  $22^h$ — $24^h$  が重出して居る。重出して居るといふことは、前後の圖版に跨るところを調べるのによいのである。然し本圖の重出の方法が一方に  $2^h$ , 他方は重出して居ない。Norton の星圖の様に、赤經は左右共若干づゝ重出させる方が見出し易い。

又星座の境界線が舊式と新式とを混用してあるが、新式のみとすべきであると思ふ。赤道以北は全部舊式で、赤緯南  $10^\circ$  或は  $20^\circ$  邊から新式により、混用されて居る點は賛成出来ない。

星の等級は一、二……六等星迄、それに星圖、星霧、メシエ星表番號、微光天體の位置を記入してあることは、初學者が迷ふことのないのは頗る同感であるが、Norton の星圖に比較すると星の数も、星名も少い。例へば海豚星座に於ては、全天星圖22(内11に星名を附してある) Norton 38(内25に星名を附してある)の如きである。

卷末の解説は著者が讀者に對する親切の現れである。

7. 其の他は日本天文學會要報 No. 8—No. 11, 天文年鑑, 理科年表等である。

## 附・ 雜 書

原稿を書いて居ると思ひ出せない漢字や文法上に疑はしこと等が度々あるので、國語の字引と漢字の辭書が手許になければ困る、餘り大部のものでなくてよい。

廣辭林 金澤庄三郎編纂 1冊 特價 ¥ 3.90 發行所 三省堂  
縮刷字源 簡野道明著 1ク ク ¥ 3.80 ク 北辰館

先づ前記の二書で大體間に合ふが、現代語といふ厄介なものがあつて、年々月々増加して行く、昭和六年一月「現代」の附録「現代新語辭典」を買つて置いた、近頃の新しい語はこれには見當らない。「昭和七年毎日年鑑」の附録「現代術語辭典」は一年分丈け新しいものがある。ハイキングなどは見當らない。日記や毎年出版される年鑑の様なものも一冊宛は必要である、これには最近一年間の流行語も加はるからだ。

簡野道明先生著「故事成語辭典」はよいが、

作文新辭林 島山健編輯 1冊 ¥ 1.20 發行所 郁文舎

で我慢して居る。本書は明治三十八年四月八日の出版であるが、現代語辭典とは異なつて舊いことが載せてあるので、度々手にする。

本書の内容は、同訓異義漢字用法 P. 1——P. 122 熟語 P. 123——P. 414 故事 P. 415——P. 610 俚諺 P. 611——P. 716 名數 P. 717——P. 800 の五篇から成つて居る。

それから日本地圖と外國地圖が必要だ。小川琢治博士の日本地圖帖は實に良地圖帖であるが、定價35圓では吾々には高價である。最近出版された、

新日本圖帖 藤田元春著 1冊 ¥ 5.80 發行所 刀江書院

は百萬分の一の梯尺を主とし、村名は大字に及んで居ないが、價からこの位で忍ばねばならない。外國地圖は外國製によいものがあつても、仲々高いので、

最新世界現勢地圖帖 小川琢治著 1冊 ¥ 12.00 發行所 新光社

で先づ々々辛抱せねばなるまい。

前記兩地圖とも索引があるので便利である。後者には解説がついて居るから、外國地理の一般を知ることが得られる。

新聞や雑誌の切抜帳が大切なことがある。天文に關するものは、明治の末年から始め現今第四冊に及んで居る。昨年の大風水災以前は象象に關するものは少なかつたが、以後は多くなつたので新に作つて居る。

近來は折々天文講演等に出掛けるので、種々の事を知つて居らねばならなくなつて來た。天文の話をするにも雜談に長じて居ないといけない。常識を涵養して居ることが必要である。時には現代語も交ぜねば人氣がわるい。學校の講義とは異つて、聴衆の學識程度が種々の場合が多いので、話方にも馴れなくてはならない。本年一月の「雄辯」の附録「東西大雄辯家物語」を読んで見ると啓發されることが多い、自己流の話方をするよりは、今迄の人々が苦心された雄辯法の一端を心得て置かねばならないので、

雄辯法講話 加藤咄堂著 1冊 ¥ 2.00 發行所 大日本雄辯會講談社

を繙いて居る。

以 上